

カイロ・シラーフ通り周辺における伝統的建築遺産を活用した 地域再生ワークショップ

日大生産工 ○山岸 輝樹 日大生産工(院) 大坊 岳央 日大生産工(院) 久納 恵太
日大生産工(院) 望月 雄馬 日大生産工(院) 古田 莉香子 日大生産工(学部) 杉山 寛治
日大生産工 広田直行 日大生産工 布野修司

1 はじめに

エジプトのカイロ旧市街には、10世紀以降のモスク等、イスラムの歴史的建造物が多数残されている。またそこで営まれてきた都市的生活を通して築かれた伝統的な居住様式が存在し、特徴的な都市住居が残されている。カイロ旧市街の歴史的価値は高く評価されており「イスラム都市カイロ」として1979年にユネスコの世界遺産に登録されている（2007年にはカイロ発祥の地「オールドカイロ」とともに「カイロ歴史地区」に名称変更）。

しかし都市化の進展に伴い多くの貧困層が流入し人口増大が進むとともに、富裕層の新市街へ移住が進み、また2011年のエジプト革命以降、本来は世界遺産地区では禁止されている高層建築など不法建築が乱立するなど変化に直面している。さらに歴史的遺産として評価される建築があまりにも膨大なため、遺産の保護・管理が適切に行われておらず倒壊したまま放置されているものも少なくない。これは市民の側に「自分たちの遺産」としての意識が低いということも一因とされている。

市民の歴史的遺産への意識覚醒について、わが国の高度成長期からの町並み保存の経験を生かせる可能性がある。また、京都の町家再生などで見られるような、歴史的建造物の活用を通して地域の持続可能性を考えていくあり方は、カイロ旧市街にも適応可能であると考えられる。

本稿は本年8月にカイロ旧市街のシラーフ通り周辺を対象に行われた、歴史的遺産を活用した地域再生に関するエジプト・日本共同ワークショップについて報告するものである。

2 対象地

シラーフ通りは世界遺産指定されたカイロ旧市街内に位置し、約700年前のマムルーク朝時代からの歴史がある。シラーフとは武器のことであり、武器関連の工房が多数立地したこと

からこの名となった。その後、伝統工芸の工房が主流となり、現在では多くの家具工房や靴工房などの軽工業が集まる地域となっている。

通り周辺にはイスラム様式の歴史的価値のある建造物も多く、隣接して「ブルーモスク」と呼ばれる「ガーマ・アズラク」があり、また少し離れたところにイスラム最古の高等学府となる「ガーマ・アズハル」などがある。またこれらに加え地域コミュニティの中のモスクなどはイスラム社会におけるワクフ（寄進）によって造られており、地域の共有財産とされる。一方で保護修復が進まず、利用も行われていないことが現在の地域住民の歴史遺産に対する低い意識の原因となっている。

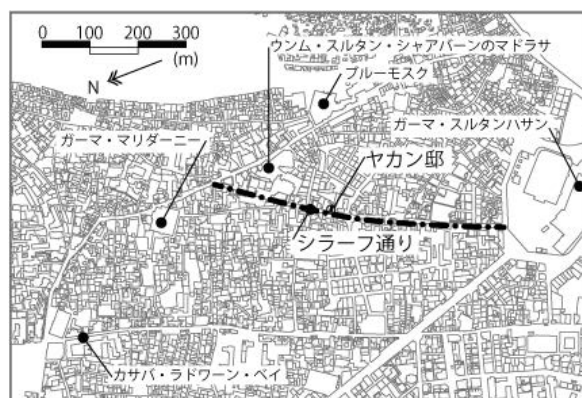


図1 カイロ・シラーフ通り位置図



シラーフ通りの様子 話し合いの様子
写真1 ワークショップの様子

Regional Revitalization Workshop on Utilization of historical architectural
heritage around Souk Al Silah in Cairo

Teruki YAMAGISHI, Takahiro DAIBOH, Keita KUNO, Yuma MOCHIZUKI,
Rikako FURUTA, Kanji SUGIYAMA, Naoyuki HIROTA and Shuji FUNO

このシラフ通りにおいて、学振カイロ研究センター長の深見直子先生とメヌーフィヤ大学のアラー・エル・ハバシー先生を中心とした歴史遺産と共存する地域コミュニティ再生のエジプト・日本共同プロジェクトが立ち上がっている。その一環としてこれまで16回のワークショップが行われているが、そのうちの1回が本稿で報告するものである。

ワークショップはバイト・ヤカン（ヤカン邸）と呼ばれる建物を中心に行われる。バイト・ヤカンは16世紀からの歴史的に貴重な建築であるが、その後に放棄されていたところを、アラー先生が代表を務めるNGOにより再生、現在もリノベーションが続けられている地域再生の拠点である。

3 ワークショップの内容

ワークショップは8月17日から3日間行われ、シラフ通り周辺地域の歴史的遺産を現代の生活の中に再生・活用する提案を作成し、地域住民に提示を小なうという内容である。日本人1名とエジプト人2～3名の学生を中心とした若者による混成チームを一班とし、計6班に別れて作業を行なった。日本からの参加者のうち3名が本学からの参加である。

初日はまずアラー先生によるカイロ旧市街の歴史と都市構成、コミュニティと街路の関係等のレクチャーが行われた。その後6班それぞれに担当地域と歴史遺産が課題として与えられ、まち歩きを行なった。まち歩きでは歴史遺産を見てくるだけでなく、歴史遺産やカイロ旧市街の都市空間について、その良さを体感してくること、またこの地に住む居住者にとって歴史遺産や都市空間がどのようなものなのかをヒアリングするように指示があった。午後には感じたこと・分かったことの共有が行われ、その上で提案の検討を進めた。

2日目は前日の続きのレクチャーの後、提案検討の時間とされた。必要がある班はその都度街に出て現地を訪ね、調査を行ないながら検討を進めた。

3日目は中間発表と講評が行われた後、案をまとめる作業とワークショップの準備が行われ、夕方に地域の方を招いたワークショップで提案の発表が行われた。

4 提案の内容

6班によって以下の提案が行われた。地域に点在するサビル（水飲み場）をカフェ・ア

イスクリームスタンド・図書館・公民館とする提案、ハンマーム（浴場）を拡張しスーパー銭湯の様なスーパーハンマームとする案、またハンマームをイスラム圏には少ない女性専用の居場所とし、周辺に子供や男性の居場所も整備することによって家族全員が楽しめる居場所づくりをする案、住宅を周辺の家具工房と連携する家具ギャラリーとカフェにする案、路地を整備してコミュニティの居場所とする案、歴史遺産を活用しながら地域に必要なオープンスペースを作る案。下図に示すのは提案の1部である。

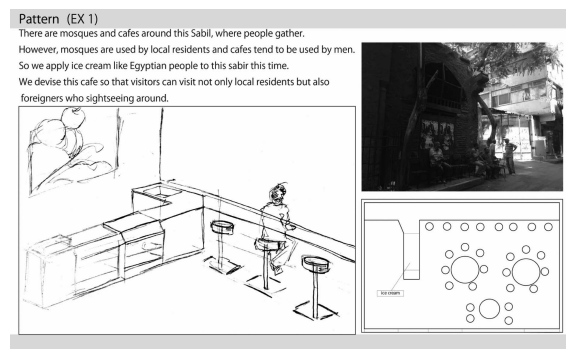


図2 提案の内容

5 提案に対する反応

これらの提案に対して地域住民の反応は良いものばかりではなかった。これらの提案が今後どうなっていくのか、継続され実現されることこそが課題であるといった反応である。

しかし歴史的建築の活用で地域の居住性が向上することへの期待や、そのために居住者自身が何ができるかを問うような意見もあった。

6 まとめ

以上、本年8月にカイロで行われたワークショップについて報告した。本ワークショップの後、地域での活動は発展し、地域住民自らが地域再生に取り組むユニオンの形成のためのワークショップが行われている。

今回、我々がこのワークショップに参加したことは極めて微力ながらも、カイロ・シラフ通り周辺の地域住民に歴史的遺産を保全・活用し地域再生に取り組もうとする意識の醸成することに一役買うことができたのではないかと考えている。